

イラク投資セミナー 中曽根外務大臣メッセージ

我が国企業による対イラク投資誘致のために、遠路日本にお越し頂いたイラクの代表団の皆様の訪日を心より歓迎いたします。

今年はイラクとの外交関係の樹立から70周年という佳節を迎えます。この意義深き年は、日イラク経済関係を構築・拡大する重要な年として歴史に刻まれることでしょう。

本年1月には、安倍元総理が、麻生総理特使としてイラクを訪問し、両国の長期的な友好関係を謳った包括的パートナーシップ宣言への署名が行われました。3月には、本邦企業12社の幹部と政府関係者が、バグダッドでマリーキー首相他イラク政府要人を表敬し、経済関係強化のため意見交換しました。

また、今年に入って、在イラク大使館員が、一部日本企業と共に南部の都市バスラを訪問し、円借款事業サイトを視察しております。70年代、80年代に日本の企業が建設した発電所等の施設が、度重なる戦争や経済制裁にもかかわらず、イラクの技師達によって何とか維持・稼働されてきたことに感銘を受けたと聞いています。「30年間、日本を待っていた。」という彼らの言葉が、プレスでも大きく報じられました。

イラクの治安情勢は引き続き注意して見ていく必要がありますが、2007年の夏以降、着実な改善傾向にあると言え、市民の暮らしにも活気が出てきていると聞いております。我が国は、自衛隊の派遣、50億ドルのODA等、これまで積極的なイラク復興支援を実施してきました。現在、ようやくイラクの安定が徐々に取り戻されつつあることは、嬉しいことです。今後とも我が国は、円借款の着実な実施、技術協力、経済・ビジネス関係の強化を通じてイラクの復興を支援していく考えであり、先月訪日されたズイーバーリー外相にも、この点を改めて伝えたところです。

イラクは、これから本格的な復興と開発の時代を迎えると期待します。今回の投資セミナーが、お集まりの皆様がイラクへの投資をご検討する上で、有益な機会となることを期待し、私からのメッセージとさせていただきます。

日本国外務大臣 中曽根 弘文